

公正発展党 ( Adalet ve Kalkınma Partisi ) 研究  
- AKP 国会議員を中心に -

南西アジア課程トルコ語専攻

学籍番号 8599090

櫻川知子

## 目次

はじめに	p . 2
第一章 トルコ共和国における親イスラーム政党の歴史	p . 3
、1960 年代～1996 年	
、1996 年～2002 年総選挙まで	
第二章 2002 年 11 月 3 日総選挙と AKP 政権の誕生	p . 9
、選挙前のトルコ社会・政界の様子	
1 ) エジェヴィット ( Bülent Ecevit ) 政権	
2 ) 解散総選挙への道のり	
、選挙結果と AKP 単独政権の誕生	
1 ) 2002 年 11 月 3 日総選挙結果と AKP 単独政権の誕生	
2 ) AKP の勝因	
第三章 AKP 国会議員の特徴	p . 15
1 ) 出身地	
2 ) 年齢	
3 ) 学歴	
4 ) 海外留学経験	
5 ) 前職	
6 ) 国会議員経験の有無	
7 ) 習得言語	
8 ) 女性議員の数	
9 ) 全体として	
おわりに	p . 35
参考資料	p . 37
添付資料 AKP 国会議員プロフィール	

はじめに

イスラーム諸国の中で地理的に最も西欧に近いトルコは、政治的にもまた西欧に最も近いと言えるだろう。1923年のトルコ共和国成立以来、現在まで民主主義に基づいた政治体制が求められてきた。しかし、実際はクーデターや軍による政治への介入など突き当たる壁も大きかった。トルコ共和国は民主主義実現のための国是の一つとして世俗主義<sup>1</sup>をはっきりと憲法に示しており<sup>2</sup>、国家が宗教を管理する場面も多々見られた。

2002年11月3日に行われた総選挙はトルコ共和国史上、最も話題を呼んだ。この選挙で勝利を収め、単独政権樹立を成し遂げることとなった公正発展党(Adalet ve Kalkınma Partisi<sup>3</sup>)は、親イスラーム政党だったからである。世俗主義を掲げるトルコにおける親イスラーム政権誕生のニュースは、トルコ国内にとどまらず世界中に広がり、政権の行方やトルコの今後が議論された。イスラーム原理主義運動やイスラーム諸国における不安定な政治・社会状況が注目される中、AKP政権の誕生をトルコのイスラーム傾斜と捉える外国メディアの見方もあったことは、不自然ではないのかもしれない。しかし、トルコという西欧に近い国において誕生したAKPとは、外国メディアが報道するようなイスラーム政党なのであろうか。文化、伝統として根付いているものと、イスラームの教えのもとで守られているものの境目を見つけることは難しいだろう。これと同様に、国民のほとんどがムスリムである国の親イスラーム政党をどれだけイスラーム的か位置付けることは、難しいのではないだろうか。

そこで本論では、親イスラーム政党であると言われるAKPのイスラーム的要素の度合いを探

---

<sup>1</sup> 一般的に欧米諸国などにおいて、世俗主義は「国家原理から宗教を排除または分離する思想」と定義される。しかし、トルコを含むイスラーム諸国において、世俗主義とは「イスラーム法に立脚しない国家」を意味し、その限りでは国家の側がイスラーム法を部分的に採用したり、モスクを管理することはとくに問題とされない。小杉泰「世俗主義」『岩波イスラーム辞典』岩波書店、2002年、pp. 52-53.

<sup>2</sup> 1931年に、当時政権を担っていた共和人民党が党の方針を示す原理として「六本の矢」を採択した。その中で共和主義、国民主義、人民主義、世俗主義、国家資本主義、革命主義が採り入れられ、これらは1937年に憲法に明記された。新井政美『トルコ近現代史』みすず書房、2001年、pp. 210-212.

<sup>3</sup> 以下、AKPと記す。

ることを目的としている。2002年11月3日の総選挙で選ばれた AKP 国会議員に注目し、これを一つの指標として党を検討したい。第一章ではトルコ共和国における親イスラーム政党の歴史を取り上げ、AKPに至るまでの親イスラーム政党の歴史的な流れを明白にする。第二章では2002年11月3日総選挙と AKP 政権の誕生に注目し、選挙結果を示すと共に政権誕生、AKP の勝因を見る。第三章では総選挙で当選した国会議員のプロフィールからその特徴を探る。AKP 議員だけでなく、AKP 同様、議席を獲得した共和人民党 (Cumhuriyet Halk Partisi) <sup>4</sup>の議員についても調査し、両者を比較することで AKP 議員の特徴をより明確にするよう努めることとする。

## 第一章 トルコ共和国における親イスラーム政党の歴史

、1960年代～1996年

1960年代のトルコは、経済発展の陰で地域間の経済格差問題を抱えていた。ゲジェコンドゥの誕生など、経済格差による社会変容が浮き彫りとなり、同時に政治イデオロギーについての議論も活発化した。60年代から70年代にかけて、トルコ社会全体で学生や労働組合、文化団体などが多様な政治イデオロギーを唱えていた。その中でイスラーム主義者も、当時力を増していた左翼に対抗するかのよう活動を繰り返していた。

そうして誕生した団体の一つに国民秩序党 (Milli Nizam Partisi) <sup>5</sup>が挙げられる。この政党は、当時の二大政党の一つである公正党 (Adalet Partisi) <sup>6</sup>のイスラーム擁護派議員や国民党 (Millet Partisi) 新トルコ党 (Yeni Türkiye Partisi) ナクシュベンディ教団に関係するテクノクラートやビジネスマンらによって設立された。<sup>7</sup>そして党首には、トルコ商工会議所連合の産業局長を務めた経験を持ち中小企業からの支持も厚いネジメッティン・エルバカン

---

<sup>4</sup> 以下、CHP と記す。

<sup>5</sup> 以下、MNP と記す。

<sup>6</sup> 以下、AP と記す。

<sup>7</sup> 澤江史子「新たなビジョンの探求 トルコの「イスラーム政党」の変遷」『現代の中東』No29、2000年、p. 4.

( Necmettin Erbakan ) が選ばれた。こうして 1970 年にトルコ共和国史上初の親イスラーム政党が誕生した。MNP は、西洋的な近代化政策を批判し、イスラーム教育の拡充、地域格差や所得格差の縮小による社会的公正の実現、その具体的政策として、自前の技術に依拠した工業製品の開発と輸出、開発の遅れたアナトリア中部以東への産業誘致、ムスリム諸国との貿易拡大を主張した。<sup>8</sup>中でも、1960 年代から 70 年代にかけて国が行っていた輸入代替工業化政策の下で国の保護を受けていた大企業を批判し、中小企業育成の必要性を唱えた。中小の商工業者は、政府のからの保護や外資との提携を通じて成長した大財閥に太刀打ちできず、政府や大財閥への批判を強めていた。中小の商工業者は伝統的にエスナフと呼ばれた職人・商人層の名残であるが、彼らはもともとタリーカと密接な関係を持っていたとされている。宗教への締め付けが緩んだ 1950 年以降、彼らは私財の投入や、地域住民からの寄付集めによって、イスラーム関連施設の建設・運営に貢献し、共和国におけるイスラーム復興を担ってきた。<sup>9</sup>MNP はこの中小の商工業者を主たる支持基盤とし、親イスラーム政党としての立場を確立していった。しかし、MNP の政策に対し憲法裁判所は国民秩序党が世俗主義に違反するとし、翌年には党を閉鎖した。

ところが、エルバカンはその翌年である 72 年に国民救済党 ( Milli Selamet Partisi )<sup>10</sup>と名を変えて再び親イスラーム政党を復活させた。そして、同党の支持基盤もまた宗教意識の強い中小の商工業者であった。<sup>11</sup>MSP は「精神的発展と物質的発展の両方に依拠した偉大なるトルコの再興」をスローガンに Milli Görüş と呼ばれる綱領を掲げた。<sup>12</sup>ここではイスラーム的価値観の尊重から、福祉や経済などにおける社会的公正を目指す経済社会政策が定義された。当初、同党

---

<sup>8</sup> 澤江史子「イスラーム復興の企業家精神 トルコの MÜSIAD を事例として」小松久男・小杉泰 ( 編 ) 『現代イスラーム思想と政治運動』東京大学出版会、2003 年、p.218.

<sup>9</sup> 澤江、前掲論文、pp.218 219.

<sup>10</sup> 以下、MSP と記す。

<sup>11</sup> 1970 年代にイマーム・ハティップ学校が建てられていた地域は、中小の商工業者や農民が多い地域であった。また、1983 年のある調査によれば、イマーム・ハティップ学校の学生の父親はこれらの職業に従事しているものが多い傾向が見られた。澤江史子「新たなるビジョンの探求」p.6,8.

<sup>12</sup> 澤江、前掲論文、p.9.

はこれらの主張を全面に押し出したが、やがて反体制の様相が強くなっていった。また、エルバカンの発言からも反西洋の主張が強くなっただけでなく、党の機関誌でも反ライクリッキや反アタトゥルクの表記が増えた。そしてイラン革命に触発され、シャリーアの復活を求める声さえ党内であがり、1980年にはとうとうMSPが閉鎖されることとなった。MSPの態度は、ライクリッキ体制の批判やEC加盟の反対など、解党されても不思議ではないものだったからである。

1980年クーデター、そして軍政の後、83年に民政移管が行なわれた。そこで誕生した三つの党のうち、トゥルグット・オザル(Turgut Özal)率いる祖国党(Anavatan Partisi)<sup>13</sup>に注目したい。祖国党はAPの流れをくみ、1980年以前の右派勢力を集めて設立された党であった。党首であるオザルはMSPの幹部だったコルクト・オザル(Korkut Özal)の兄で、コルクトやエルバカンと同じナクシュベンディ教団にも属していた。<sup>14</sup>ANAP党首オザルは、83年から89年まで首相を務め、トルコ経済の再建に力を注いだ。オザルの政策により、財閥や外国資本の進出においては成功を収めたが、こうした一部の経済発展とは裏腹に貧しい者の数も増大した。また、貧富の差の拡大だけでなく多額の財政赤字も生み出したANAPは、次第に国民からの信頼を失っていった。この間に代わって票を集めたのが、スレイマン・デミレル(Süleyman Demirel)率いる正道党(Doğru Yol Partisi)<sup>15</sup>とエルバカン率いる福祉党(Refah Partisi)<sup>16</sup>であった。

RPはMSPの後継として1983年に設立された。党首は同じくエルバカンであり、この時期もMilli Görüşとほぼ同様である「公正な体制」(Adil Düzen)を唱えた。<sup>17</sup>しかし、Milli Görüşが民主主義や政治体制の理解に関するものであるのに対し、「公正な体制」が経済体制に関して強く主張されていたことは、以前と異なる点である。RPはオザル政権の経済自由化政策に伴って表面化し始めていた矛盾に強く異議を唱えた。

時期を同じくして、80年代はイスラーム主義にも変化が起きていた。この要因を新井政美は

---

<sup>13</sup> 以下、ANAPと記す。

<sup>14</sup> 澤江、前掲論文、p. 10.

<sup>15</sup> 以下、DYPと記す。

<sup>16</sup> 以下、RPと記す。

<sup>17</sup> 澤江、前掲論文、p. 11.

「知的階級の中にイスラーム主義が定着したこと」、「イスラーム主義の発展が自由化を目指す経済政策によって作り出された、貧富の差の拡大に支えられていたこと」と分析している。<sup>18</sup>確かに、前者においては1970年に設立された「知識人の炉辺」<sup>19</sup>が80年代に入り発展を見せたことで裏付けることができる。これはイスラーム議論を活発化させ、しだいに実業界や政界の人々を巻き込んでいった。オザルもこの組織の主催するセミナーで演説を行なったこともあり、このことが知的階層の間でイスラームが議論の対象になるきっかけとなった。また、国内外の実業家、資産家、篤志家たちの資金によって、モスクや説教師養成学校の建設、宗教的な書物の出版もさかんに行なわれるようになり、こうしてイスラーム主義は、人材と財政の両方の基盤を確立していった。後者においては、人々の社会的経済的不平等への不満が、支配層の汚職による体制への不満や絶望感と重なって、イスラーム主義を支持するようになったと考えることができる。

このような時代背景と共に、RPは支持層を拡大していった。RPは「公正な体制」を合言葉にクルド問題などの国民の時事的関心事を主張し、かつての反体制的イメージを拭い去ることに努めた。そして、収賄や大気汚染、水不足、交通事情、失業、インフレ、などの具体的な問題だけでなく、やがて人権と民主主義擁護、自主独立の外交政策など、主張の幅を広げていった。さらに、RPがイスラームを全面主張しないオザルの政治手法<sup>20</sup>を用いたことも、支持の拡大をさらに成功させた。イスラーム運動のイメージを大幅に覆すオザル的なモダン・イスラームの主張<sup>21</sup>はRPの反体制的イメージを拭うことに貢献した。<sup>22</sup>

そして、支持基盤を新規開拓するためにも組織化戦略が行なわれた点にも注目したい。例えば

---

<sup>18</sup> 新井政美『トルコ近現代史』pp. 292 - 293 .

<sup>19</sup> 知的な議論が左翼にのみ独占されている状況を打破しようと、イスタンブル大学文学部歴史学科およびトルコ語トルコ文学科に所属する民族主義的教官たちを中心に設立された。新井、前掲書、p. 292 .

<sup>20</sup> オザルは「経済自由化への強い志向とムスリム保守主義の組み合わせ」を志向したが、あくまでもプラグマティックによりこれを成し遂げようとした。澤江、前掲論文、p. 13 .

<sup>21</sup> オザルは「ムスリムかつモダン」という新しいムスリム像を浸透させ、それまでの反体制的なイスラーム運動のイメージを大幅に覆す、オルタナティブのムスリム・アイデンティティを提示した。澤江、前掲論文、p. 13 .

<sup>22</sup> 澤江、前掲論文、p. 13 .

イスタンブルにおいて、RP のイスタンブル県組織は街区やアパートに至るまで組織リーダーを張り巡らせ、きめ細かな情報収集を行った。同時に貧困家庭に食料や燃料を配るなどの草の根運動は絶大な支持を集めた。こうして RP は人々の支持を得ることに成功した。そして、1994 年に行なわれた統一地方選挙では、アンカラ、イスタンブルの 2 大都市をはじめとする多くの都市で勝利を収める結果となった。さらに 1995 年の総選挙において議会第一党となった RP はその翌年である 96 年に、タンス・チルレル (Tansu Çiller) 率いる DYP と連立政権を組むこととなり、トルコ共和国史上初めて、親イスラーム政党の党首であるネジメッティン・エルバカン率いる連立政権が誕生した。

、1996 年～2002 年総選挙まで

ここまで順調に国民の人気を得てきたかのように見える RP だが、連立政権下ではマイナスのイメージも残す結果となった。そもそも、DYP と連立政権を組むこととなった一因は、DYP 党首であるチルレルの不正疑惑隠蔽および RP の不正隠し<sup>23</sup>であったと言われる。両者の利害が一致しての連立政権樹立が今までの RP の印象を悪くしたことは、紛れもない事実である。さらに、政策において目立った変化が期待できなかったことも、党に暗雲をもたらした。RP は特に経済政策に力を入れたものの、財政赤字の改善は見られなかった。そして、エルバカンによるイスラーム色の強い政策も RP の歯車を狂わせた。エルバカンは、公共機関でのヴェール着用解禁の検討や、イスタンブルのタクシム広場へのモスク建設案などを打ち出した。そして、イスラーム教団の指導者を対象とした、首相官邸での断食明け夕食会開催は、大切な支持基盤の一つである穏健派からなるイスラーム教団のメンバーたちをも困惑させる結果となった。<sup>24</sup>一連のエルバカン

---

<sup>23</sup> チルレル自身の不正、および RP 関係者の集めたボスニア・ヘルツェゴビナ支援の募金が RP に送金されていた件において、疑惑追及をやめさせるために DYP と RP が連立して国会の調査委員会の多数派を構成することは、不起訴の決定を実現させるために好都合だった。間寧「トルコの混迷する連立政治」『現代の中東』No21、1995 年、p. 43.

<sup>24</sup> 大半が穏健派からなるイスラーム教団にとって、エルバカンの行いは世俗主義の許容範囲を超えていた。教団指導者たちは、軍部など世俗主義国家勢力の間に反イスラーム的感情が高まる



の行動が2月28日事件<sup>25</sup>を引き起こし、RPは議員の離党など党内から崩れだした結果、その4ヶ月後である97年6月には連立政権も崩壊した。そして98年に憲法裁判所は世俗国家に敵対的であるという理由から、RPに解散を命じた。

RPは閉鎖されたものの、97年に設立されたレジャイ・クタン(Recai Kutan)党首率いる美德党(Fazilet Partisi)<sup>26</sup>がRPの後継政党として継続された。FPはRP時代よりも大きな法的制約を受けていたため、世俗主義に反する強いイスラーム路線の主張が今まで以上に解党を招く可能性を秘めていた。さらに、ANAPから穏健イスラーム派議員が入党してきたこともあり、党全体として穏健イスラーム路線に変化していった。人権などのより普遍的な価値観でイスラーム的实践の擁護を試みつつも、経済政策においてはRP時代の草の根運動を取り入れ、人々の人気を集めた。さらにクタンは、FPが新しい党計画を策定するにあたり意見を求めるため軍部を含む関係者に手紙を送るなどし、世俗主義者との関係修復も試みている。<sup>27</sup>

しかしこのような明るい兆しとは裏腹に、FPを支配しようとするエルバカンの行動が党内に陰を落とした。FP党首はクタンであるが、彼はエルバカンの意見に反対することができなかった。FP時代に入ってから、党内に古参幹部と若手幹部の2グループが見られるようになったが、陰の党首的存在であるエルバカンの介入を阻止しようとする若手幹部と、それに対抗する古参幹部の間の亀裂は拡大する一方だった。そして、イスラーム的政策を進めたいエルバカンがスカーフ事件<sup>28</sup>を起こしたことで、党内の亀裂はますます決定的なものとなった。

---

ことを恐れていた。間寧「トルコにおけるイスラーム派政党の変容」『アジア経済』XL - 11、1999年11月、pp. 60 - 61.

<sup>25</sup> エルバカン政権がイスラーム的政策に傾斜したのに対し、1997年2月28日の国家安全保障会議で軍部の圧力によりイスラーム運動を取り締まるための措置が決定された出来事をいう。間、前掲論文、p. 61.

<sup>26</sup> 以下、FPと記す。

<sup>27</sup> 間、前掲論文、p. 59.

<sup>28</sup> ヴェール事件ともいう。エルバカンが総選挙でFPの比例代表名簿に無理やり押し込んで当選させたメルベ・カヴァクチュ(Merve Kavakçı)議員が、公的機関での着用が禁止されているスカーフを着用して国会本会議場に現れた事件。国会は休会となり、カヴァクチュは退場した。間、前掲論文、p. 62.

2001年、ついにFPは解党を余儀なくされた。そして、同年7月20日にはエルバカンを中心とする古参幹部によって至福党（Saadet Partisi）<sup>29</sup>が、8月14日にはレジェップ・タイップ・エルドアン（Recep Tayyip Erdoğan）率いる若手幹部によって公正発展党（AKP）が設立された。SP設立当初はFPからSPへ51人、後に設立されるAKPへ54人の議員が分散したが<sup>30</sup>、AKP設立後の2001年8月15日の時点ではSPが48、AKPが51の議席を有する結果となった。

31

SPはエルバカンのもとで従来のMilli Görüşüを貫く方針をとった。一方でAKPはイスラーム的な主張からより中道右派の主張、穏健へと方向転換をはかった。旧FP分裂の際も、イスラーム的政策を進めようとするエルバカン支配の打破と党の穏健化を目指す改革派若手層がAKPへ流れ込んだ。AKPの主張がかつてのFPのそれとは異なり、その幅が広がったことは確かである。このことは支持者の特徴にもよく表れている。社会研究センター（Sosyal Araştırmalar Merkezi）が行なった政党の支持者を対象とした調査<sup>32</sup>によると、「シャリーアを必要とするか」という問いに「必要とする」と答えた割合は、AKP支持者では22.8%、SP支持者では37.3%であった。これに対し「シャリーアに反対である」と答えた割合は、AKP支持者では43.5%、SP支持者では23.5%であった。これはFPが分裂したことで、明らかに異なる主張を唱える2つの党であるSPとAKPが誕生したこと、そしてAKPがSPより穏健イスラーム路線をたどっていることを物語っている。

---

<sup>29</sup> 以下、SPと記す。

<sup>30</sup> Abudullah Karakuş, “Milli Görüş (5) Saadet,” *Milliyet*, 21 Temmuz 2001.

<sup>31</sup> Aydın Hasan, “Ampul burada aydınlanma nerede?,” *Milliyet*, 16 Ağustos 2001.

<sup>32</sup> Taha Akyol, “Dincilik yerine liberal bir dil: AKP'nin arkasında ne var? Öteki partiler ne yapıyor?-2,” *Milliyet*, 18 Ekim 2002.

## 第二章 2002年11月3日総選挙とAKP政権の誕生

### 、選挙前のトルコ社会・政界の様子

#### 1) エジェヴィット (Bülent Ecevit) 政権

選挙前に政権を担っていたエジェヴィット内閣は、1999年4月に成立した。これはエジェヴィット率いる民主左派党 (Demokratik Sol Partisi)<sup>33</sup>、バフチェリ (Devlet Bahçeli) 率いる民族主義行動党 (Milliyetçi Hareket Partisi)<sup>34</sup>、ユルマズ (Mesut Yılmaz) 率いるANAPからなる連立政権だった。この政権下ではIMFによる厳しい緊縮政策が実施されただけでなく、99年8月のマルマラ大地震、2001年2月に発生した金融・通貨危機、2001年9月11日のアメリカ同時多発テロの影響で、トルコ経済は低迷していた。<sup>35</sup>当然、国民所得も落ち込み、人々の経済失政への不満は大きかった。

#### 2) 解散総選挙への道のり<sup>36</sup>

2002年5月4日以降、エジェヴィット首相の健康問題および執務能力低下問題が起きた。同月8日には早くもDYPとSPがエジェヴィットに辞任と解散総選挙を要求したが、彼はこれを拒否した。さらに同月中にAKPも前2党と同じ声明を出し、チルレル個人も何度か解散総選挙の実現を口にした。さらに、政治的混乱が続くと経済に悪影響を及ぼすという、経済担当大臣のケマル・デルヴィシュ (Kemal Derviş) による発言もエジェヴィット退陣の意見を高めた。政界だけでなく世論にもエジェヴィット退陣の声が広がる中、エジェヴィット自身は政権継続と選挙を行わない方針を貫いてきた。しかし、エジェヴィットが未だ首相としての任務を果たすこ

---

<sup>33</sup> 以下、DSPと記す。

<sup>34</sup> 以下、MHPと記す。

<sup>35</sup> 間寧「トルコ2002年総選挙と親イスラム政権の行方」『現代の中東』No35、2003年、p. 70.

<sup>36</sup> 本項は、2002年末に掲載されたミツリエツ紙ホームページの特集“Türkiye: 2002 Yılı Nasıl Geçti?”の5 - 11月分を参考にした。

とができない状況にあることから、7月に入ると以前にも増して彼の退陣を要求する声は高まった。特に MHP のバフチェリがこの要求を強く主張しはじめた。この頃、DSP 議員の離党が相次いたが、外務大臣を務めていたイスマイル・ジェム (İsmail Cem) までもが離党し、ついに離党者数は 7 月 15 日時点で 53 人に達した。さらに、ジェムや元 DSP 議員ら 63 人は、エジェヴィットに対抗する形で新トルコ党 (Yeni Türkiye Partisi)<sup>37</sup>を結成した。ジェムが離党し YTP 党首を務めたことは注目をあびた。こうして、政界全体に現政権への不満が高まった結果、7 月 31 日の大国民議会において、11 月 3 日の総選挙実現が決議された。この際、DSP の反対票 62 に対し、賛成は 449 票だった。

その後、デルヴィシュの動きが政界の騒動に追い討ちをかけた。2001 年 2 月経済危機後に世界銀行副総裁から経済担当大臣に就任したデルヴィシュは国民から高い人気を集めており<sup>38</sup>、彼が 8 月 10 日に経済担当大臣を辞任した後はジェム率いる YTP に加わるとされていたが、同月 23 日には CHP へ入党した。その結果、彼は人々の期待を削いでしまった。この頃、YTP から DSP へ戻った議員も続出した。YTP からだけでなく別の党へ移る議員の数は増えつづけ、政界全体の騒動は収まらなかった。そしてこのまま選挙戦に突入したのだった。

## 、選挙結果と AKP 単独政権の誕生

### 1) 2002 年 11 月 3 日総選挙結果と AKP 単独政権の誕生

2002 年総選挙はトルコ共和国史上、類を見ない結果をもたらした。公正発展党 (AKP) が 34.29% の得票率で 363 議席を獲得、続いて共和人民党 (CHP) が 19.38% の得票率で 178 議席を獲得した。<sup>39</sup>得票数第 3 位以下の全ての政党は、全国平均 10.0% の当選必要得票率を満たさな

---

<sup>37</sup> 既出の新トルコ党とは異なる。以下、YTP と記す。

<sup>38</sup> 間寧「トルコ 2002 年総選挙と親イスラム政権の行方」p. 69.

<sup>39</sup> Yüksek Seçim Kurulu (YSK) による調査結果。“Seçimlerin kesin sonuçlar açıklandı,” *Milliyet*, 10 Kasım 2002.

かったため議席を獲得できず、多くの死票を招いた。前政権を担っていた3党は1議席も獲得することができなかった。特にMHP党首バフチェリやANAP党首ユルマズは解散総選挙を強く要求し、政権をとる自信もあっただけに、結果はさんざんなものとなった。これを受けて、選挙当日である11月3日にバフチェリが党首を辞任すると表明し、さらに翌日4日にはチルレルがDYP党首を、ユルマズがANAP党首を辞任する意向を示した。<sup>40</sup>議席定数は550であるが、AKP363、CHP178、無所属9の議席配分となり、AKP単独政権の誕生に至った。

こうして2002年11月18日には第58代ギュル (Abdullah Gül) 内閣が成立した。これはトルコにおいて初めての、親イスラーム政党による単独政権となった。党首であるエルドアンは議員資格を持っていなかったため、当初はギュルが首相を務めたが、後に憲法が改正されエルドアンに議員資格が認められると、2003年3月14日には第59代エルドアン内閣が誕生することとなった。

第1表 2002年トルコ総選挙政党別得票率と獲得議席数

政党	得票率	獲得議席	議席占有率
公正発展党(AKP)	34.28	363	66
共和人民党(CHP)	19.38	178	32.4
正道党(DYP)	9.54	0	0
民族主義行動党(MHP)	8.36	0	0
青年党(GP)	7.25	0	0
民主人民党 (DEHAP)	6.22	0	0
祖国党 (ANAP)	5.13	0	0
至福党 (SP)	2.49	0	0
民主左派党(DSP)	1.22	0	0
新トルコ党(YTP)	1.15	0	0
無所属	1	9	1.6
その他	3.98	0	0
合計	100	550	100

<sup>40</sup> “Türkiye/Kasım: 2002 Yılı Nasıl Geçti?.” 2002年末ミツリエット紙ホームページにて掲載。

(出所) 2002年11月10日に Yüksek Seçim Kurulu (YSK) が発表した選挙結果より、筆者作成。  
<http://www.belge.net.com/secim/3kasim.html> . 2004年1月12日ダウンロード。

第1図 2002年トルコ総選挙県別第一議席獲得政党



(出所) ミリエツ紙ホームページにて特集されている“Milliyet Sandık Sonuçları”より抜粋。  
<http://www.milliyet.com.tr/ozel/siyaset/secim2002/sandiksonuc.asp>, 2002年総選挙後に掲載された。  
2002年11月11日掲載分を2004年1月12日にダウンロードした。

## 2) AKP の勝因

選挙において AKP が最も高い得票率を収めた勝因として、まず AKP の最大の特徴とも言える党の若さが考えられる。これについては第三章で詳しく検討するが、AKP は FP が解党した際に若手・改革派によって結党された。この若返りという画期的な変化が人々の心を捉えた。ベリム (Birim) 研究社によるアンケート調査<sup>41</sup>によると、18~25 才の若者の 40% が AKP を支持している。一般的に変化を好むと言われる若者の支持を集めたことから、AKP の画期的な変化が伺える。

---

<sup>41</sup>トルコ各地に分散した 603 人の有権者を対象とした電話アンケート。Yılmaz Esmer, “Baykal olmasa, CHP daha çok oy toplardı: Seçmen davranışlarından 3 Kasım Analizi/4,” *Milliyet*, 18 Kasım 2002.

そして党首であるエルドアンの人気も AKP 票への絶大な効果を得られた。選挙後に行なわれた有権者を対象とした調査によれば、AKP 支持者の 94.2% がエルドアンを支持している。<sup>42</sup>彼は 1994 年のイスタンブール市長就任当時からすでに人気があり、98 年の被選挙権剥奪後<sup>43</sup>も絶えずメディアに注目され続けてきた。人気の理由としてエルドアンのカリスマ性を指摘する声が多いが、それ以上に、エルドアンがカスムパシャ (Kasımpaşa)<sup>44</sup> の出身であること、そして彼自身がかつてゲジェコンドゥに住んでいたことが貧困層の支持を広げていると言われる。<sup>45</sup> 貧困層から這い上がったタフな人材としてのイメージは同じ貧困層に同朋意識や希望を与え、高い支持率に導いた。<sup>46</sup>

また、イスラーム色を極力抑えた AKP の選挙戦線も勝因の大きなポイントとなった。政府機関でのヴェール着用解禁などの親イスラーム政党の従来主張を遵守しつつも、親欧米外交や経済政策などトルコの従来政策を継続することを約束した。<sup>47</sup> 中道右派的な主張は親イスラーム支持者だけでなく、幅広い層の支持を得たことは言うまでもない。特に中道右派層の支持は AKP にとって大きな味方となった。

この他、トルコ経済の不調や政権の不安定な状況がもたらした前政権への批判票も、AKP を有利な立場へ導いた。

---

<sup>42</sup> 国内 16 県内 64 郡の都市部および農村部在住の 1212 人の有権者を対象に行なわれた面接調査の結果。調査会社など複数の団体・個人の協力で行なわれた。Yılmaz Esmer, “Derviş ve Öztürk sınıfı geçemedi: 3 Kasım Analizi-1,” *Milliyet*, 15 Kasım 2002.

<sup>43</sup> 1998 年、シイルト (Siirt) にて宗教対立を煽る詩を読んだという罪で禁錮刑に服すとともに、被選挙権を剥奪された。

<sup>44</sup> イスタンブールの中で貧しい人々が住む地域のうちの一つである。

<sup>45</sup> Önay Yılmaz, “Bizden biri’ görüntüsü Erdoğan’ın avantajı: Artıları Eksikleriyle Tayyip Erdoğan 2,” *Milliyet*, 15 Ağustos 2001.

<sup>46</sup> エルドアンに限らず、AKP は経済的・社会的に下層・中下層である人々による支持が大きい。社会研究センター (Sosyal Araştırmalar Merkezi) による選挙前に行なわれた調査結果。Taha Akyol, “Dincilik yerine liberal bir dil: AKP’nin arkasında ne var? Öteki partiler ne yapıyor?-2,” *Milliyet*, 18 Ekim 2002.

<sup>47</sup> 間寧「トルコ 2002 年総選挙と親イスラーム政権の行方」p. 73.

### 第三章 AKP 国会議員の特徴

トルコにおける親イスラーム政党は時代と共に変化の道をたどり、前述のように現在における親イスラーム政党の一つである AKP は穏健イスラームであると言われている。選挙直後はトルコ全体がイスラームへ傾斜するのではないかという声も聞かれたが、他政党とは異なる親イスラーム政党とは一体どのようなものなのであろうか。どの点がどの程度イスラーム的であるか、AKP のイスラーム的要素の度合いを明らかにするために、本章では AKP 議員に焦点を当て、議員のプロフィールから AKP 議員の特徴を探る。例えばプロフィール中の議員の学歴から、イスラーム教育機関で学んだ率や、出身学部から AKP 議員に好まれる学問のタイプなどを見ることが出来る。また、習得言語の種類や数から、AKP 議員がどの地域の言葉により関心があり、言葉を学ぶことに対してどの程度興味があるのかということが伺える。AKP 議員にかつてどのような学歴・職歴をたどって来た人が多いのか、どのような背景を持った人材が集まる政党なのかということ考察し、彼らのそして AKP の、イスラーム的要素の度合いを調べる。

AKP 議員を調べる上で、AKP と同様に議席を確保している CHP の議員も調べ比較検討する。AKP と CHP はそれぞれ中道右派と中道左派であるため十分な比較の対象になり、これらを検討することで AKP 全体の特徴をより鮮明にできると考えたからである。資料は AKP ホームページ<sup>48</sup>およびトルコ大国民議会ホームページ<sup>49</sup>より、両政党の議員プロフィールを集めた。それらをもとに、8 項目に分けて両政党の議員を比較検討し AKP 議員の特徴を探る。

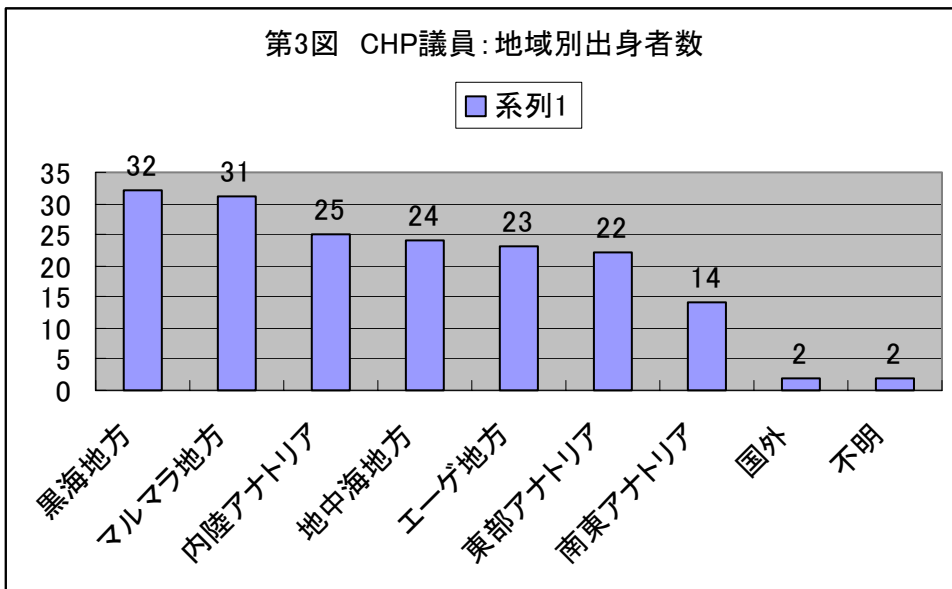
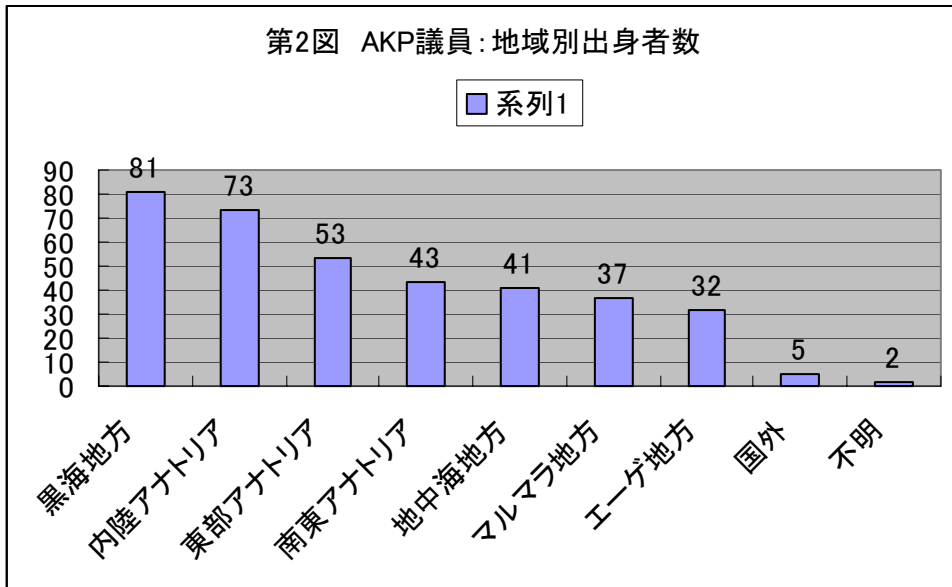
---

<sup>48</sup> <http://www.akp.org.tr>, 2003 年 11 月 18 日ダウンロード。

<sup>49</sup> <http://www.tbmm.gov.tr>, AKP 議員の資料に関しては 2003 年 11 月 18 日にダウンロード。CHP 議員の資料に関しては同年 12 月 11 日ダウンロード。



1) 出身地



まず地域別に見ると（第2図・第3図）、両政党とも黒海地方出身者が最も多く占めていることがわかる。両政党とも大差はないが、CHPに17.7%（31人）を占めるマルマラ地方出身者

が AKP には 10.1% (37 人) しかいない。国外出身者は AKP に 5 人<sup>50</sup>おり、内わけはブルガリア出身者 2 名、マケドニア、イギリス、ギリシャ出身者がそれぞれ 1 名ずつとなっている。CHP には 2 人<sup>51</sup>おり、ブルガリア、マケドニア出身者がそれぞれ 1 名ずつである。

第 2 表 県別選出議員数

地中海地方			東部アナトリア		
	AKP	CHP		AKP	CHP
Adana	8	6	Ağrı	4	1
Antalya	5	8	Bingöl	3	0
Burdur	2	1	Bitlis	3	0
Hatay	5	5	Elazığ	4	0
İsparta	4	1	Erzincan	2	1
Kahramanmaraş	7	1	Erzurum	7	0
Karaman	2	1	Hakkari	2	1
Mersin	5	7	Iğdır	0	1
Niğde	2	1	Kars	2	1
Osmaniye	3	1	Malatya	5	2
	43	32	Muş	3	1
			Tunceli	0	2
			Van	6	1
				41	11

<sup>50</sup> İbrahim Köşdere, Ziyaettin Akbulut(ブルガリア), Niyazi Pakyürek(マケドニア), İbrahim Reyhan Özal(イギリス), Mustafa Dündar(ギリシャ).

<sup>51</sup> Ali Dinçer(ブルガリア), Memduh Hacıoğlu(マケドニア).

黒海地方

	AKP	CHP
Amasya	2	1
Ardahan	1	1
Artvin	1	1
Bartın	2	0
Bayburt	1	0
Bolu	3	0
Çorum	4	1
Düzce	3	0
Giresun	4	1
Gümüşhane	2	0
Karabük	3	0
Kastamonu	3	1
Ordu	5	2
Rize	3	0
Samsun	7	2
Sinop	2	1
Tokat	5	2
Trabzon	6	2
Zonguldak	3	2
	60	17

マルマラ地方

内陸アナトリア

	AKP	CHP		AKP	CHP
Balıkesir	5	3	Aksaray	4	0
Bilecik	1	1	Ankara	17	12
Bursa	12	4	Çankırı	3	0
Çanakkale	2	2	Eskişehir	3	3
Edirne	1	3	Kayseri	7	1
İstanbul	42	27	Kırıkkale	3	1
Kırklareli	1	2	Kırşehir	2	1
Kocaeli	6	3	Konya	14	2
Sakarya	6	0	Nevşehir	3	0
Tekirdağ	2	3	Sivas	5	1
Yalova	1	1	Yozgat	5	1
	79	49		66	22

## エーゲ地方

## 南東アナトリア

	AKP	CHP		AKP	CHP
Afyon	6	1	Adiyaman	4	1
Aydın	4	4	Batman	4	0
Denizli	4	3	Diyarbakır	8	2
İzmir	8	16	Gaziantep	7	3
Kütahya	6	0	Kilis	2	0
Manisa	6	4	Mardin	3	2
Muğla	2	4	Şanlıurfa	8	3
Uşak	2	1	Siirt	3	0
	38	33	Şırnak	2	0
				41	11

(出所) トルコ大国民議会ホームページより、筆者作成。本章で取り扱ってる AKP 議員は 367 人だが、2003 年 12 月 20 日のダウンロード時点では 368 人である。他党から 1 名入党したと考えられるが、それが誰であるかは不明である。<http://www.tbmm.gov.tr>, 2003 年 12 月 20 日ダウンロード。

次に、出身地と出馬地区が等しいとは限らないが、ここでは大方当てはまると仮定し、地域別出身者を県別選出議員数(第 2 表)と照らし合わせたい。すると、黒海地方においては、両政党とも議席数よりも出身者数の方が上回る。特に CHP は出身者数が議席数の約 2 倍となっている。これとは対照的に、マルマラ地方においては、両政党とも議席数よりも出身者数の方が下回る。特に AKP は出身者数が議席数の半分以下である。また、他の地域に注目するとエーゲ地方において、CHP は出身者数が議席数を下回る。逆に、東部と南東部においては、CHP は出身者数が議席数を上回る結果となった。AKP においては、先に述べた黒海地方とマルマラ地方以外で大差は見られないものの、若干、東部では出身者数の方が多く、地中海地方とエーゲ地方では議席数の方が多かった。

第3表 県別出身者数

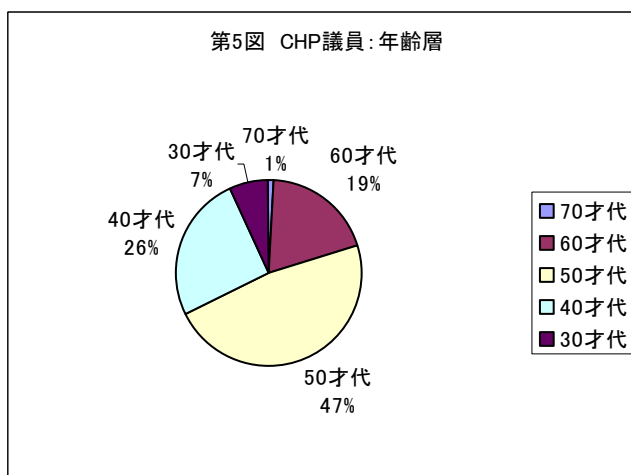
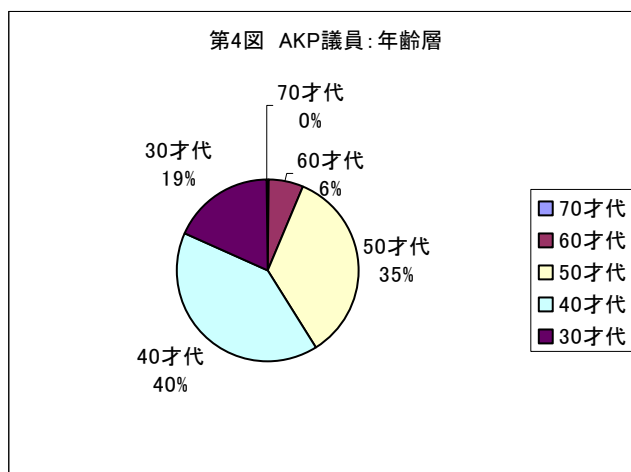
AKP 議員		CHP 議員	
Konya	15	İstanbul	10
Trabzon	14	Antalya	7
İstanbul	12	Ankara	7
Ankara	12	Rize	6
Kayseri	11	İzmir	6
Sivas	10	Tunceli	5
Diyarbakır	10	Malatya	5
Erzurum	9	Hatay	5
Yozgat	8	Balıkesir	5
Şanlıurfa	8	Trabzon	4
Rize	8	Sivas	4
K.Maraş	8	Şanlıurfa	4
Bursa	8	Konya	4
		K.Maraş	4
		Aydın	4

AKP 議員においては上位 13 県を、CHP 議員においては上位 15 県までを掲載。

次に、県別（第3表）で考察したい。AKP における上位 10 位までの 13 県を見ると、中部アナトリアが 5 県、黒海地方、マルマラ地方、南東部が 2 県、東部と地中海地方が 1 県ずつとなっている。CHP における上位 10 位までの 15 県は、マルマラ地方、中部アナトリアが 3 県、地中海地方、黒海地方、南東部、東部が 2 県、エーゲ地方が 1 県となっている。この 13 県と 15 県を照らし合わせたところ、両政党に共通してランキングしている県は 8 県ある。イスタンブル、

アンカラ、コンヤ、トラブゾン、シヴァス、リゼ、シャンルウルファ、カフラマンマラシュであるが、これらを第2表の県別選出議員数とそれぞれ比べると、シヴァスとリゼのみ、出身者が議席数をかなり上回る。時代による人口および県別人口分布の違いも考えられるが、この2県からは政党を問わず政治家が多く輩出していると言える。

2) 年齢<sup>52</sup>



<sup>52</sup> 1924～33年生まれの人を70才代、34～43年生まれを60才代、44～53年生まれを50才代、54～63年生まれを40才代、64～73年生まれを30才代とする。

AKP 議員に最も多い年代は 40 才代の 40.3% (148 人) である。これに対し、CHP 議員において 40 才代は 25.7% (45 人) を占めるにとどまっており、50 才代が 46.9% (82 人) と最も多い。30 才代・40 才代を若手と定義する場合、AKP 議員は若手が 58.9% (216 人) を占めるが、CHP 議員の場合 30.9% (54 人) にすぎない。一方、60 才代・70 才代の割合は AKP 議員が 6.3% (23 人) に対し、CHP 議員は 20.6% (36 人) である。これらから、AKP は若手を中心とした党であり、CHP は若干年輩を中心とした党であることがわかる。

### 3) 学歴

第 4 表 最終学歴別人数

		AKP		CHP	
		人数	割合	人数	割合
小学校	ilkokul	4	1.1	3	1.7
中学校	ortaokul	7	1.9	5	2.9
高校	lise	20	5.5	14	8
専門学校	akademi	36	9.8	8	4.6
専門教育学校	enstitü	23	6.3	8	4.6
短期大学	yüksekokul	17	4.6	17	9.7
大学	üniversite	260	70.8	112	64
その他		0	0	6	3.4
不明		0	0	2	1.1
		<b>367</b>	<b>100</b>	<b>175</b>	<b>100</b>



第5表 大学院進学者数

	AKP		CHP	
	人数	割合	人数	割合
専門学校から	6	6.6	0	0
専門教育学校から	2	2.2	0	0
短期大学から	1	1.1	1	3.1
大学から	82	90.1	29	90.6
不明	0	0	2	6.3
	<b>91</b>	<b>100</b>	<b>32</b>	<b>100</b>

最終学歴<sup>53</sup>（第4表）を見ると、両政党ともに大学卒業者が最も大きい割合を占めていることがわかる。しかし、かつての師範学校（Eğitim Enstitüsü）やイスラーム教育組織（İslam Enstitüsü）、専門学校（akademi）が現在では大学の学部として設置されている可能性もあるため、ここでは高校卒業後に教育を受けた割合に注目したい。すると AKP 議員において高校卒業後に教育を受けた割合（akademi, enstitü, yüksekokul, üniversite 卒業者）は 91.6%（336 人）にのぼる。CHP 議員において<sup>54</sup>は 87.4%（153 人）であり、AKP 議員の方が若干高学歴と言える。さらに、大学院進学者数（第5表）に注目すると、AKP 議員の場合、全体（367 人）の 24.3%（91 人）であるのに対し、CHP 議員では全体（175 人）の 18.3%（32 人）にすぎない。この人数を先程の、高校卒業後に教育を受けた人数で割った場合、AKP 議員では 27.1%（91 / 336 人）、CHP 議員では 20.9%（32 / 153 人）となる。つまり、AKP 議員の方が高校卒業後だけでなく、さらに大学院以上進んだ人の割合が多い。

<sup>53</sup> 大学院を除く。

<sup>54</sup> 学歴不明者が 2 名（Mehdum Hacıoğlu, Onur Başaran Öymen）いるが彼らの学部は判明しているため、ここではカウントする。

第 6 表 出身大学别人数

AKP			CHP		
	人数	割合		人数	割合
İstanbul Üniversitesi	71	26.6	Ankara Üniversitesi	35	31
Ankara Üniversitesi	58	21.7	İstanbul Üniversitesi	30	26.5
İstanbul Teknik Üniversitesi	28	10.5	Ege Üniversitesi	11	9.7
Anadolu Üniversitesi	15	5.6	İstanbul Teknik Üniversitesi	5	4.4
Atatürk Üniversitesi	12	4.5	Yıldız Teknik Üniversitesi	4	3.5
Gazi Üniversitesi	12	4.5	Anadolu Üniversitesi	3	2.7
Orta Doğu Teknik Üniversitesi	10	3.7	Gazi Üniversitesi	3	2.7
Marmara Üniversitesi	8	3	Orta Doğu Teknik Üniversitesi	3	2.7
Yıldız Teknik Üniversitesi	8	3	Hacettepe Üniversitesi	3	2.7
Karadeniz Teknik Üniversitesi	6	2.2	Uludağ Üniversitesi	2	1.8
Selçuk Üniversitesi	4	1.5	Selçuk Üniversitesi	2	1.8
Hacettepe Üniversitesi	4	1.5	Marmara Üniversitesi	2	1.8
Erciyes Üniversitesi	4	1.5	Karadeniz Teknik Üniversitesi	2	1.8
Ege Üniversitesi	4	1.5	Atatürk Üniversitesi	2	1.8
Dokuz Eylül Üniversitesi	4	1.5	London School of Economics and Political Science	1	0.9
Uludağ Üniversitesi	3	1.1	Kazakistan El Ferabi Devlet Üniversitesi	1	0.9
Fırat Üniversitesi	3	1.1	Fransa Dijon Üniversitesi	1	0.9
Boğaziçi Üniversitesi	3	1.1	Fırat Üniversitesi	1	0.9
Çukurova Üniversitesi	2	0.7	Dokuz Eylül Üniversitesi	1	0.9
Niğde Üniversitesi	1	0.4	Çukurova Üniversitesi	1	0.9
Medine-i Münevvere İslam Üniversitesi	1	0.4	20 大学	113	約 100
El Azher Üniversitesi	1	0.4			
Dicle Üniversitesi	1	0.4			
Cenevre Üniversitesi	1	0.4			
Azerbaycan Bakü Üniversitesi	1	0.4			
A.B.D.City University Of New York Baruch College	1	0.4			
19 Mayıs Üniversitesi	1	0.4			
27 大学	267	100			

次に、出身大学（第 6 表）を見ると、AKP 議員にはイスタンブル大学出身者が最も多く、一方で CHP 議員にはアンカラ大学出身者が多い。両政党ともイスタンブル大学、アンカラ大学が上位 2 校を占めるが、その順序が逆になっている。トルコにおいて優秀な大学であると見なされている中東工科大学、ボアジチ大学、イスタンブル工科大学に注目すると、中東工科大学出身者は、AKP 議員において 3.7%（10 / 267 人）、<sup>55</sup>CHP 議員においては 2.7%（3 / 113 人）該当する。<sup>56</sup>ボアジチ大学出身者は、AKP に 1.1%（3 / 267 人）いるが CHP に該当者はいない。イスタンブル工科大学は AKP 議員においては 3 番目に多く、大学出身者の 10.5%（28 / 267 人）を占めている。しかし CHP 議員において、イスタンブル工科大学出身者は 5 人しかおらず、4.4%（5 / 113 人）で 4 位に位置している。

そして、大学の出身学部（第 7 表）に注目したい。両政党とも法学部出身者が大きく占めているが、AKP 議員には工学部・理学部出身者の多いことが特徴として挙げられる。工学部・理学部出身者を合計した割合は、AKP 議員の場合 13.9%（37 / 267 人）であるのに対し、CHP 議員では 8.8%（10 / 113 人）にすぎない。また、CHP 議員には 1 人しか見られない神学部出身者は、AKP 議員では 18 人該当する。これは全学部出身者の 6.7%を占めている。この他、CHP 議員には見られない薬学部出身者が 5 人、社会学部出身者が 2 人、AKP 議員で見られる。一方で、農学部出身者の割合は CHP 議員では 5.3%（6 人）であるのに対し、AKP 議員では 0.7%（2 人）であった。

---

<sup>55</sup> 最終学歴の大学卒業生数は 260 人であるが、重複を含むため大学別の卒業生数は 267 人となる。

<sup>56</sup> 最終学歴の大学卒業生数は 112 人であるが、重複を含むため 113 人となる。

第7表 大学出身学部別人数

AKP			CHP		
	人数	割合		人数	割合
法学	63	23.6	法学	34	30.1
工学	32	12	医学・歯学	15	13.3
政治	25	9.4	建築・設計	11	9.7
建築・設計	21	7.9	政治	9	8
医学・歯学	20	7.5	経済・商	9	8
神学	18	6.7	農学	6	5.3
経済・商学	17	6.4	工学	6	5.3
経営	14	5.2	理学	4	3.5
人文	13	4.9	不明	4	3.5
教育	13	4.9	人文	4	3.5
政経	12	4.5	経営	4	3.5
理学	5	1.9	教育	3	2.7
薬学	5	1.9	獣医	2	1.8
獣医	3	1.1	政経	1	0.9
不明	2	0.7	神学	1	0.9
農学	2	0.7		<b>113</b>	<b>100</b>
社会	2	0.7			
	<b>267</b>	<b>100</b>			

次に、大学以外の教育機関（第8表）にも注目したい。専門学校や短期大学（yüksekökol）に関して、両政党に大きな違いは見られない。唯一、AKP 議員には警察学校（Polis Akademisi）

出身者が2人<sup>57</sup>いたことが大きな違いと言える。この他、師範学校出身者はCHPに9人、AKPに7人該当する。イスラーム教育組織出身者に関しては、CHPに該当者はいないが、AKPには18人当てはまる。また、AKP議員で陸軍士官学校（Kara Harp Okulu）を卒業した後、中東工科大学に進学した者<sup>58</sup>が1人いるが、CHP議員には陸軍士官学校を最終学歴とする者が2人<sup>59</sup>おり、軍とCHPのつながりを表している。

全体を通して注目すべきことは、やはりイスラーム系教育機関出身者数の差である。大学やイスラーム教育組織など何らかのイスラーム系教育機関卒業者の数は、CHP議員では1名<sup>60</sup>であるのに対し、AKP議員では38名にのぼる。これはAKP議員にイスラームを学ぼうとする人が多いということを明らかに表している。

第8表 大学以外の出身教育機関別人数

	AKP	CHP
専門学校	37	8
師範学校	7	9
イスラーム教育組織	18	0
男子芸術専門教育学校	1	0
短期大学	17	18
教員養成学校	0	3
陸軍士官学校	1	2
アメリカ、フェアリックス音楽院	0	1

<sup>57</sup> Muharrem Tozçöken, Şükrü Önder.

<sup>58</sup> Aziz Akgül.

<sup>59</sup> Eşref Erdem, Rasim Çakır.

<sup>60</sup> Yaşar Nuri Öztürk.

4) 海外留学経験

第9表 国別留学先人数

AKP 議員	39 人	CHP 議員	15 人
アメリカ	21	アメリカ	9
イギリス	15	フランス	3
フランス	4	イギリス	2
ドイツ	1	カナダ	1
オーストリア	1	カザフスタン	1
イタリア	1		重複あり、16
ハンガリー	1		
エジプト	1		
アゼルバイジャン	1		
スウェーデン	1		
サウジアラビア	1		
	重複あり、48		

AKP 議員のうち海外で教育を受けた人数は 39 人で 10.6%を占め、CHP 議員においては 15 人で 8.6%である。よって、この人数に関して両政党に大差はないと言える。しかし、海外留学した国別で人数を見た場合、AKP 議員では 48 人、CHP 議員では 16 人がこれに該当する。つまり、AKP 議員の方が一人当たりより多くの国で教育を受けたことがわかる。

国については、AKP 議員が合計 11 カ国で、CHP 議員が合計 5 カ国で教育を受けている。AKP・11 カ国の内わけは、欧米 8 カ国、中東 2 カ国、中央アジア 1 カ国である。これに対し、CHP・5 カ国の内わけは、欧米 4 カ国、中央アジア 1 カ国である。AKP・中東 2 カ国で勉強した議員<sup>61</sup>はイスラームに関して学んでおり、その点が CHP 議員とは異なる結果になっている。

<sup>61</sup> Mustafa Eyiceoğlu, Resul Tosun.

## 5) 前職

第 10 表 前職別人数

		AKP	CHP
教育関連	eğitimci, öğretim üyesi, prof., öğretmen	76	34
国家公務員	mülki idare amiri, maliyeci, müsteşar, bürokrat	19	7
地方公務員・行政	kamu yöneticisi, mahalli idare yöneticisi, belediye başkanı	16	3
監査員	denetim elemanı, müfettiş	4	0
法律関連	savcı, hakim, avkat	63	32
経済関連	muhabebeci, mal müşavir, iktisatçı, bankacı, sigortacı, planlama uzmanı	36	18
コンサルタント	yeminli mali müşavir, danışman	11	6
経営者	yönetici, işletmecisi	24	9
産業関連	sanayci	23	8
貿易関連	ticaretçi	24	9
ビジネスマン・ビジネスウーマン	iş adamı, iş kadını	42	6
マネージメント	idareci	2	2
労働組合従事	sendikacı	2	5
観光産業	turizmci	3	2
商売人	tüccar, tekstilci, kuyumcu	11	4
作家	yazar	6	2
報道関連	yayıncı, gazeteci, editör	10	6
宗教関連	ilahiyatçı, müftü	6	0
文系学者(法・経済を除く)	psikolog, siyaset bilimci, uluslararası ilişkiler uzmanı, felsefeci	4	1
芸術関連	ressam, sinema oyuncusu	1	1
理系学者	kimyacı	0	1
物流関連	taşıma	0	0
小売関連	esnaf	0	1
船主	armatör	1	0
警察	emniyet müdürü	2	0
軍関連	askeri mahkemesi başkanı	1	0
医療関連	tıp doktoru, diş hekmi, veteriner hekimi	20	12
薬剤師	eczacı	9	1
農家	çiftçi, ziraatçı	9	5
技術者	mühendis	60	21
建設・土建関連	mimar ve inşaat mühendisi, müheahhit	18	16

AKP 議員は CHP 議員より、公務員や行政に関わる仕事に従事していた人数の比率が若干多い。監査においては、CHP 議員では該当者がいないが、AKP 議員では 4 人が該当している。また、技術者と薬剤師が占める割合は、AKP 議員の方が CHP 議員よりもかなり大きい。これは学歴の項目で AKP 議員に理系出身者の割合が大きかったことが起因していると考えられる。そして、経営・産業・貿易・ビジネスマン・ビジネスウーマン・マネージメント・商売系の仕事に従事する割合も AKP 議員の方がかなり大きい。これらの大方は中小企業・商工会議所関連と位置付けることが出来るが、第一章で述べたように、親イスラーム政党の形成や発展において中小の商工業者による支持は欠かせなかった。このことから、AKP 議員と親イスラームの人々とのつながりが伺える。さらに、CHP 議員には一人も該当しなかった宗教関連の職業において、AKP 議員のうち 6 人が該当している。これもまた、AKP 議員に親イスラームである人が多いことを示す材料になっている。

一方、労働組合に従事する割合は CHP 議員の方が大きかった。これは CHP が左派であることを示す一因と言えるだろう。また、建設・土木関係者の割合も CHP 議員の方が大きかった。

両政党とも、教育関係者や法律関係者が大きな割合を占めている。また政党間で、経済関係者や医療関係者の割合にさほど差は見られなかった。

#### 6) 国会議員経験の有無

国会議員経験者は AKP 議員に 69 人おり、全体の 18.8% に相当している。CHP 議員には 33 人おり、18.9% に相当する。この点、両政党に大差はないと言える。しかし、無回答の可能性もあるが CHP の議員経験者は全員 CHP から当選しているのに対し、AKP の 6 人は他党から当選している。その内わけは、祖国党 (ANAP) から 4 人<sup>62</sup>、正道党 (DYP) から 2 人<sup>63</sup>、民族主義行動党 (MHP) から 1 人<sup>64</sup>となっている。この他に、国会議員ではなかったものの他党の新

---

<sup>62</sup> Abdulkadir Aksu, Ali Er, Cemil Çiçek, Murat Başesgioğlu.

<sup>63</sup> Hüseyin Çelik, Tayyar Altıkulaç.

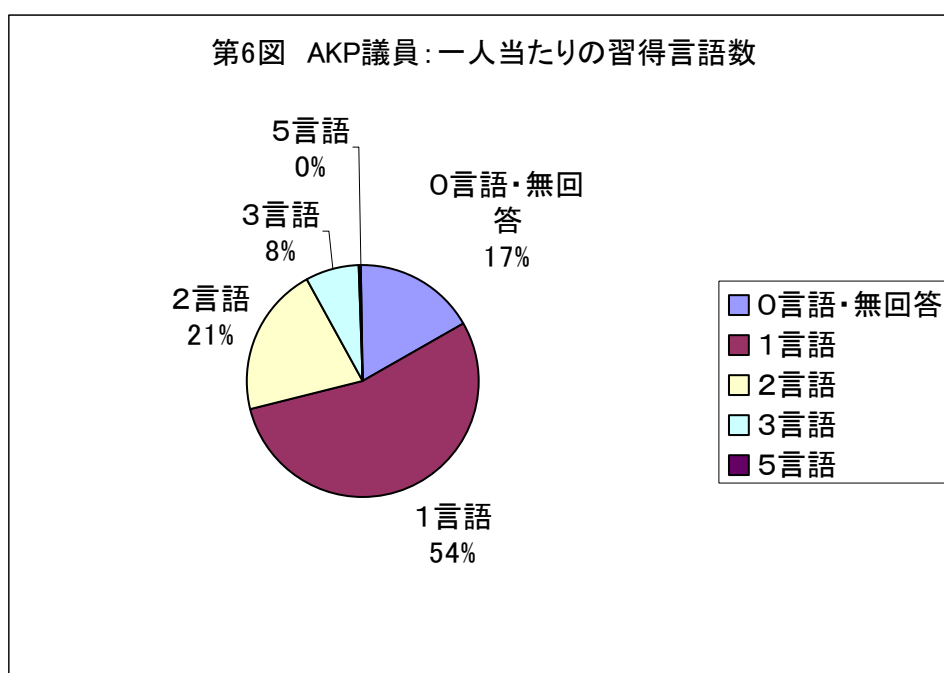
<sup>64</sup> Sadık Yakut.



設などに関わった者が ANAP に 1 人<sup>65</sup>、BTP<sup>66</sup>と DYP に 1 人<sup>67</sup>、新党 (Yeni Partisi) に 1 人<sup>68</sup>で、合計 3 人となっている。他党からの入会者によって、党員や党全体の雰囲気の変化が見込めるといふ点から、AKP は CHP より党の変化が起きたと考えられる。

また、CHP の議員経験者には第 5 期などのかなり前の経験者も目立つが、AKP の議員経験者は比較的最近に当選した人ばかりである。このことから、CHP に議員経験が豊富な人材が多いといえる。

## 7) 習得言語

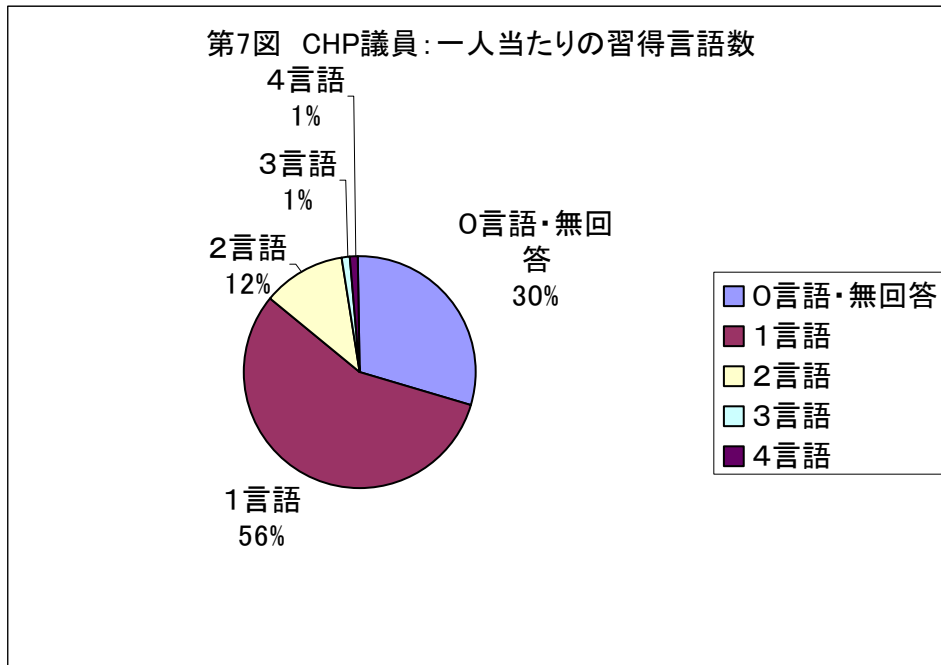


<sup>65</sup> Ali Ayağ.

<sup>66</sup> ANAP 解党後に設立された個人政党と思われるが詳細は不明。

<sup>67</sup> Mehmet Dülger.

<sup>68</sup> Reha Denemeç.



全体的に、AKP 議員の方が言語習得率が高いと言えるだろう。まず、「他の言語を全く知らない・もしくは無回答」の割合は AKP 議員が 17.2%(63 人)、CHP 議員が 29.7% (52 人) であり、この数からも AKP 議員の言語習得に対する関心の高さが伺える。さらに、言語別で人数を合計した場合、AKP は 440 人に上り、議員数と照らし合わせると 119.9%になる。一方、CHP は 154 人であり、88.0%に過ぎない。つまり、AKP 議員の方が一人当たりの平均習得言語数が多い。

両政党とも英語習得者が最も多く、同様にフランス語やドイツ語も習得者も多い。しかし、AKP 議員の 80 人がアラビア語を習得しているのに対し、CHP 議員では 12 人しか当てはまらない。これは、AKP 議員にはイスラーム系教育機関を卒業した人が多いことが原因であると考えられる。また、ペルシャ語においても、AKP 議員では 8 人が習得しているが、CHP では誰も該当していない。大学の神学部ではペルシャ語を選択授業に取り入れているところも多いことから、このような結果になったと考えられる。

AKP 議員は合計 15 言語を回答しているが、CHP 議員は合計 9 言語と少ない。また、AKP で

1名<sup>69</sup>、クルド語を回答しており、興味深い。

第 11 表 言語別習得者数

AKP		CHP	
英語	241	英語	94
アラビア語	80	フランス語	28
フランス語	62	ドイツ語	15
ドイツ語	35	アラビア語	12
ペルシャ語	8	イタリア語	1
ロシア語	3	スウェーデン語	1
カザフ語	2	スペイン語	1
ブルガリア語	2	ロシア語	1
ギリシャ語	1	ブルガリア語	1
ウズベク語	19	9 言語	154
クルド語	1		
日本語	1		
イタリア語	1		
オランダ語	1		
ボスニア語	1		
15 言語	440		

#### 8) 女性議員の数

AKP には 12 人の女性議員がおり、全体の 3.3% を占めている。一方、CHP には 11 人おり、6.3% を占めている。どちらの政党も女性の割合が大きいとは言えないが、割合において CHP の方が AKP の倍であることから、より女性に開かれた党と言える。

---

<sup>69</sup> Seracettin Karayağız.

## 9) 全体として

AKP 議員は若手を中心に構成されており、全体的に学歴も高い。そして文系だけでなく、理系出身者の数も多い。イスラーム教育機関出身者も多く、これに比例するかのようアラビア語の習得率も高い。言語においてはアラビア語だけでなく、幅広い言語を多くの人々が習得している。職業においては学歴が影響しているせいか、理系職も数のうえで劣らない。しかし、中小企業・商工会議所関連の職業に就いている人が最も多い。国会議員経験者は少ないとは言えないものの比較的最近の経験者ばかりで、議員経験の点でも若手の党であると言える。

一方、CHP には年輩が多く政治に慣れた議員も多い。出身地において、黒海地方やマルマラ地方出身者が多いことはそれほど不思議ではないが、CHP 支持者が比較的多いエーゲ地方において出身者が議席数を下回ることは意外である。

## おわりに

親イスラーム政党と言われる AKP はイスラーム的であるか。これに対し、半分はイエスと答えられるのではないだろうか。

本論第三章の学歴、海外留学経験、前職、習得言語の項目で、AKP 議員のイスラーム的な要素を見ることができた。イスラーム教育やイスラーム組織に携わった人々は、彼らに共通し、かつ、そうでない人々とは異なる、イスラーム的な心情や信仰を共有しているであろう。それらが政権の中でどのように反映されるかは本論では分析の対象外であったが、AKP が親イスラーム政党である所以は議員プロフィールに確かに表れていると言える。しかし、その数が大多数を占めるというわけではなく、また他政党からの入党者も見られることなどから、他政党と変わりない要素も十分に備えていると言える。

選挙前に行なわれた調査で、宗教や社会的な面で抑圧されていると感じている人々は AKP を

支持する傾向があるだけでなく<sup>70</sup>、経済・社会レベルが低い人々に AKP を支持する割合が高い<sup>71</sup>ことが判明した。実際に選挙後のアンケート調査でも、AKP へ投票した人々は社会・経済的に下層階級に位置し教育レベルも低い人々が多いという結果が出ている。<sup>72</sup>一方で CHP へ投票した人々は社会・経済的に中・上層階級に位置し、高学歴である。<sup>73</sup>選挙前にアナル (ANAR) 研究会が国会議員を対象に行なった調査では、AKP 議員は「抑圧され保守的な階層の出身であり、エリート出身ではない」という結果が明らかになった。「教育レベルも社会的立場も低い階層から中央へ出世したいという勉強のできる者たちが、AKP を代表している。」<sup>74</sup>

AKP 支持者は、自らに立場に近い議員が多く所属する AKP に投票し、様々な希望を託したのであろう。AKP 議員のように、貧しい出身ながらも上層階級へ少しでも出世したいという夢もあるのかもしれない。しかし、日本と異なり貧富の差の大きなトルコにおいては、家庭の経済レベルと学歴は確実に比例するといっても過言ではないだろう。そのような状況下で、果たして経済的に貧しい家庭の子供が高学歴者になるチャンスはどれだけあるのだろうか。本論が第三章で取り扱った AKP 議員の考察では、議員の育った家庭環境や親の収入、さらには本人の収入まで踏み込んで調査することは出来なかった。これを今後の課題としたい。

最後に選挙後に行なわれた、有権者の宗教観に関する調査結果<sup>75</sup>を紹介したい。これによると、

---

<sup>70</sup> 社会研究センター (Sosyal Araştırmalar Merkezi) が、自分自身をどう形容するかを人々に尋ねたところ、自らを形容する前に「宗教、国民、政治的イデオロギーにおいて抑圧されていると感じている」と回答した人々の割合は 24.4% だった。Taha Akyol, “Bir feryat: Eziliyorum!: AKP'nin arkasında ne var? Öteki partiler ne yapıyor?-1,” *Milliyet*, 17 Ekim, 2002.

<sup>71</sup> Taha Akyol, “Dincilik yerine liberal bir dil: AKP'nin arkasında ne var? Öteki partiler ne yapıyor?-2,” *Milliyet*, 18 Ekim, 2002.

<sup>72</sup> トルコ各地に分散した 603 人の有権者を対象とした電話アンケート結果。Yılmaz Esmer, “Baykal olmasa, CHP daha çok oy toplardı: Seçmen davranışlardan 3 Kasım Analizi/4,” *Milliyet*, 18 Kasım 2002.

<sup>73</sup> Yılmaz Esmer, “Baykal olmasa, CHP daha çok oy toplardı: Seçmen davranışlardan 3 Kasım Analizi/4,” *Milliyet*, 18 Kasım 2002.

<sup>74</sup> Taha Akyol, “Bir feryat: Eziliyorum!: AKP'nin arkasında ne var? Öteki partiler ne yapıyor?-1,” *Milliyet*, 17 Ekim, 2002.

<sup>75</sup> 国内 16 県内 64 郡の都市部および農村部在住の 1212 人の有権者を対象に行なわれた面接調査の結果。調査会社など複数の団体・個人の協力で行なわれた。Yılmaz Esmer, “Din, siyaseti

断食をしない人の割合は AKP 支持者では 1%、CHP 支持者では 21%である。礼拝をする人の割合は、AKP 支持者では 90%近く、CHP 支持者では 50%である。水着を宗教上いけないことである (günah) と考える人の割合は、AKP 支持者で 85%、CHP 支持者で 25%であった。本論で AKP 議員の宗教観について探ることは出来なかったが、AKP 議員と CHP 議員のプロフィールにおける特徴の差より、両政党それぞれの支持者間の宗教観における差の方がはるかに大きい印象を受けた。AKP が今後支持者の意向をどの程度くみ取っていくことができるのか、注目に値するであろう。

#### 参考資料

- ・ 『岩波イスラーム辞典』岩波書店、2002 年
- ・ 新井政美 『トルコ近現代史』みすず書房、2001 年
- ・ 澤江史子 「イスラーム復興の企業家精神 トルコの MÜSİAD を事例として」小松久男・小杉泰 (編) 『現代イスラーム思想と政治運動』東京大学出版会、2003 年
- ・ 澤江史子 「新たなるビジョンの探求 トルコの「イスラーム政党」の変遷」 『現代の中東』 No29、2000 年
- ・ 間寧 「トルコの混迷する連立政治」 『現代の中東』 No21、1995 年
- ・ 間寧 「トルコにおけるイスラム派政党の変容」 『アジア経済』 XL-11、1999 年 11 月
- ・ 間寧 「トルコ 2002 年総選挙と親イスラム政権の行方」 『現代の中東』 No35、2003 年
- ・ <http://www.milliyet.com>, ミッリエット新聞 (Milliyet Gazetesi)
- ・ <http://www.akp.org.tr>, 公正発展党 (Adalet ve Kalkınma Partisi)
- ・ <http://www.tbmm.gov.tr>, トルコ大国民議会 (Türkiye Büyük Millet Meclisi)
- ・ <http://www.belgenet.com>, ベルゲネット (Belge Net)

---

etkiliyor: 3 Kasım Analizi-2,” *Milliyet*, 17 Kasım, 2002.